

2023年度

事業計画書

自 2023年4月 1日

至 2024年3月31日

公益財団法人根津美術館

東京都港区南青山6丁目5番1号

目次

I 公益事業	3
【事業の趣旨】	3
【施設の概要】	3
【コレクションの概要】	3
【事業の概要】	3
1. 展示活動	3
(1) 特別展・企画展	3
(2) 日本庭園	4
(3) ミュージアムショップ	5
(4) 喫茶店	5
2. 美術品の収集、保管及び修理	5
(1) 美術品の購入	5
(2) 美術品の寄贈受入	5
(3) 美術品の寄託受入	5
(4) 美術品の保管・修理	5
3. 調査研究	5
(1) 調査・研究	5
(2) データベース	6
(3) 研究資料の整備	6
(4) 学術プロジェクトへの参加	6
(5) 美術品の閲覧	6
(6) 研究助成	6
4. 教育普及	6
(1) 催事	6
(2) インターネットによる広報	6
(3) プレスリリース	7
(4) ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット	7
(5) 内覧会・レセプション	7
(6) 施設案内パンフレット	7
(8) 地域との連携	7
(9) 有料広告	7
(10) 根津倶楽部	7
(11) NEZUNET	8
(12) 青山茶会	8
(13) 美術品の館外貸出	8
(14) 画像の貸出	8
(15) 施設の貸与	8

II 収益事業	8
【事業の概要】	8
1. 不動産事業.....	8

I 公益事業

【事業の趣旨】

1940年（昭和15年）11月、初代根津嘉一郎（1860～1940）の遺志により財団法人を設立、翌年10月に開館した根津美術館は、美術品の展示及び教育・普及活動を行うことにより、多くの人々が日本・東洋古美術を鑑賞し、芸術・文化に関する理解を深めることを目的とした諸事業を展開している。具体的には、収蔵美術品を中心としたさまざまなテーマの企画展や特別展をはじめ、講演会、シンポジウム、会員向けプログラム、茶室を使った催事などを開催し、紀要や図録等の刊行、館外の学術研究及び教育普及活動への協力などを行う。また、継続的な収集活動によってコレクションの充実を図り、収蔵美術品の調査研究はもとより、修復などによる美術品の維持・保管の活動を行うことにより、文化財を次世代に伝え、芸術・文化の発展に寄与する。

【施設の概要】

当館は、1941年（昭和16年）10月、旧根津邸に開館し、1945年（昭和20年）の戦災により茶室を含む建築物の大部分を焼失したが、1946年（昭和21年）10月には展覧会活動を再開した。以降、数度の増改築を経たのち2006年（平成18年）より本館の新築及び収蔵庫・事務棟の改築を行い、2009年（平成21年）10月に新創開館した。

【コレクションの概要】

収蔵美術品は、尾形光琳筆「燕子花図」をはじめとする国宝7件、重要文化財89件、重要美術品95件を含む日本・東洋の古美術品7,624件をかぞえる。これらは、初代根津嘉一郎の収集品を根幹として、美術館の趣旨に賛同した方々からの寄贈品、及び購入品からなる。本年度も、新収蔵作品の可能性を考えつつ、収蔵作品を良好な状況で保管し、必要に応じた修復作業を行うことにより、充実した展示活動に備える。

【事業の概要】

2020年度より、新型コロナウイルス感染症予防対策をさまざまに講じ、美術館活動を続けてきたが、今後、消毒液や対面カウンターにおける飛沫防止用アクリルガードの設置等は継続し、来館者や職員の安心・安全を図りたい。また、入館者数のコントロールと事前決済による受付のスムーズ化を目的として2020年9月より導入したオンライン日時指定予約制は、業務の効率化や快適な鑑賞環境の維持に資するべく、利便性向上に努めながら引き続き運用したい。

1. 展示活動

（1）特別展・企画展

美術館の開館時間は、原則として午前10時から午後5時までとし、月曜日と展示替期間及び年末年始を除く毎日開館する。なお、来館者が多く見込まれる時期（特別展「国宝・燕子花図屏風 一光琳の生きた時代1658～1716」会期中の5月9日から5月14日）については、午後7時まで開館時間を延長する。

入館料は、2020年11月より、原則として特別展の場合は一般1,500円、学生1,200円、企画展は一般1,300円、学生1,000円とする。また、オンライン日時指定予約の利用促進のため、2021年2月より、予約をしていない来館者には、上記の入館料に一律100円を上乗せすることとした。いずれも中学生以下は無料とする。障害者手帳提示者と同伴1名及び、警視庁・東京都の要請により運転経歴証明書提示者へは1名につき200円の割引を行う。20名以上の団体割引、次回展の前売券（いずれも200円引）については、2020年9月より引き続き休止とし、状況を鑑みて再開を検討する。

2023年度は、1階展示室1・2（一部展覧会では加えて展示室5）において、下記の7回の特別展

及び企画展、ないし特別企画の展覧会を開催する。同時に、展示室5（工芸または書画）、展示室6（茶の美術）では、特別展・企画展の内容とのバランスをはかり、それと異なるあるいは連動するジャンルやテーマに基づく展示を行う。また、ホール・展示室3（仏教美術の魅力）および展示室4（古代中国の青銅器）は、適宜展示替えを行う（予定開館日数224日、タイトルは仮称）。

- ・特別展「国宝・燕子花図屏風 ー光琳の生きた時代 1658～1716ー」 展示室1・2
2023年4月15日（土）～5月14日（日） 開館日数27日間
同時開催「西田コレクション受贈記念Ⅱ 唐物」 展示室5
「初夏の茶の湯」 展示室6
- ・企画展「救いのみほとけ ーお地藏さまの美術ー」 展示室1・2
2023年5月27日（土）～7月2日（日） 開館日数32日間
同時開催「西田コレクション受贈記念Ⅲ 阿蘭陀・安南 etc.」 展示室5
「涼一味の茶」 展示室6
- ・企画展「物語る絵画」 展示室1・2
2023年7月15日（土）～8月20日（日） 開館日数32日間
同時開催「物語で楽しむ能面」 展示室5
「盛夏の茶事」 展示室6
- ・企画展「甲冑・刀・刀装具 ー光村コレクション・ダイジェストー」 展示室1・2
2023年9月2日（土）～10月15日（日） 開館日数38日間
同時開催「二月堂焼経 ー焼けてもなお煌めくー」 展示室5
「月見の茶」 展示室6
- ・特別展「北宋書画精華」 展示室1・2・5
2023年11月3日（金・祝）～12月3日（日） 開館日数27日間
同時開催「北宋工芸 ー館藏品よりー」 展示室6
- ・企画展「繡と織 ー華麗なる日本染織の世界ー」 展示室1・2
2023年12月16日（土）～2024年1月28日（日） 開館日数29日間
同時開催「中国の故事と人物」 展示室5
「寿茶会 ー来福を願うー」 展示室6
- ・企画展「魅惑の朝鮮陶磁」 展示室1
特別企画「謎解き奥高麗茶碗」 展示室2
2024年2月10日（土）～3月26日（火） 開館日数39日間
同時開催「ひな人形と百椿図」 展示室5
「春の茶の湯 ー釣り釜ー」 展示室6

特別展は当館の収蔵美術品のみならず館外から借用する美術品も含めて構成し、企画展は原則として収蔵美術品により構成する。いずれの展覧会も、当館学芸部が企画し、担当学芸員が中心となりもしくは参画して、作品の選定、運搬、会場構成、展示、特別展図録の作成を行い、和文・英文の解説を展示作品に付す。鑑賞しやすい展示法を考慮するとともに、和文・英文の目録を配布し、国内外からの来館者が理解しやすく、楽しめる展示とすることに努める。さらに、引き続き毎回の展示に合わせて音声ガイドを作成し、有料で提供する。

（2）日本庭園

17,000平米におよぶ日本庭園は、中央に湧水の池を配する変化に富んだ地形に喬木や灌木が茂り、

池の周囲に建つ四棟の茶室や点在する石造物が風情を添える。四季に応じた自然の変化を楽しむことのできる庭園の存在は、当館の特色のひとつでもある。

本年度もまた、これまでに引き続き、来館者の安全を最優先した環境の整備を推進し、生態系の維持管理に努める。なお、庭園の樹林は、東京都港区の「保護樹林」に指定されている。また2014年（平成26年）10月発足した、東京都主催の「東京の日本庭園おもてなし協議会」の参加庭園のひとつとして庭園の魅力をより積極的に発信していく。

2020～2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け中止していた茶室の見学会は、昨年度中盤から再開したが、今年度も引き続き可能な月には実施する。

（3）ミュージアムショップ

ホールに隣接するミュージアムショップでは、当館の施設や収蔵美術品、開催の展覧会に関連した商品を取り揃え、来館者の多様なニーズに合った、また知的欲求に適う商品の販売活動を展開する。

学術研究の成果に基づく図録や研究紀要などの書籍に加え、展覧会の内容を考慮した専門書・一般書籍を販売する。

出展作品の絵葉書やグリーティングカード類、また収蔵美術品をもとにデザインしたオリジナル商品は、デザイン性や適正な価格を考慮した商品を企画・製作する。さらに、受託商品を加えることで、バリエーション豊かな商品構成とし、効果的なディスプレイを工夫して、特色のあるショップづくりを目指す。

（4）喫茶店

庭園内に設置されたNEZUCAFÉは、軽食や喫茶のメニューを揃え、来館者の憩いや談話のための場である。食品や店内環境の衛生に万全を期すとともに、落ち着いた雰囲気の中で庭園の自然を眺める空間を維持する。

なお、2020年9月以降、新型コロナウイルス感染防止対策として、席数を減らして営業している。

2. 美術品の収集、保管及び修理

（1）美術品の購入

当館のコレクションを補完する美術品の購入を適宜行う。

（2）美術品の寄贈受入

美術品寄贈の申し出があった場合は、審査のうえ、これを受け入れる。

（3）美術品の寄託受入

美術品寄託の申し出があった場合は、審査のうえ、これを受け入れる。

（4）美術品の保管・修理

収蔵美術品の保管・展示環境を点検し、その維持管理に努めるとともに、修復が必要な美術品には適宜措置を施す

3. 調査研究

（1）調査・研究

所蔵品を中心とした美術品の調査・研究を行い、その成果を展示に反映するとともに、展覧会図録や紀要「此君」などの当館刊行物や学芸誌など館外の刊行物、また館内外でのシンポジウム及び研究

会等において報告を行う。また調査・研究の継続や発展の成果を、来年度以降の展覧会構想や企画に活かすことを目指す。

2020年度に刊行を開始した『根津美術館 新蔵品選』（全12冊）の第5冊として「近世絵画」、第6冊として「染織・能面」を刊行するほか、第7冊以降を順次刊行すべく体制を整える。

（2）データベース

所蔵品の電子版データベースへのデータ更新を継続して行い、所蔵品の基礎データを充実させ、美術館活動に資する。

（3）研究資料の整備

美術品の調査・研究に必要な研究図書や研究資料の購入・収集・整理を行い、美術館活動の効率化や学術研究に役立てる。

（4）学術プロジェクトへの参加

館内外で行われる各種研究・教育機関での学術プロジェクトに参加し、国内外の研究者や研究機関と交流を深め、情報交換や共同研究を目指す。

（5）美術品の閲覧

研究者から収蔵美術品の閲覧申請があった場合、実見または調査に基づく研究の目的や成果に学術的貢献が期待でき、且つ作品が安全な状態である場合、閲覧に応じる。

（6）研究助成

研究助成金の支給等について、引き続き検討を行う。

国内外の大学院生よりインターンシップの要望があった場合、学芸員の業務状況や学生の研究分野などを検討したうえで、適宜受け入れる。

4. 教育普及

（1）催事

例年は日本・東洋古美術への理解と普及を目的として、展覧会に連動した講演会、シンポジウム、ギャラリートーク、スライド・レクチャー、その他茶会などの催事を、講堂や茶室で実施し、施設を有効に活用した独自の催事を企画・運営することにより、美術館の認知や誘客に結びつけることに努めている。

その一環として、2011年度から茶席や茶会経験のない、あるいは初心者レベルの人々を対象に、「はじめての茶席」を実施し、茶道愛好者向けには、「現代茶人の茶席」、展示に関連した茶会なども検討・実施している。また展覧会が取り上げるテーマをさらに身近に理解できるような体験型プログラムも、実施してきた。

しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大した2020～2021年度は、開催を見送るなどの対応を行った。2022年後半から「現代茶人の茶席」、スライド・レクチャーを再開したが、2023年度も状況を見つつ、可能なものから適宜再開していきたい。

（2）インターネットによる広報

展覧会や各種の催事、施設の情報などを多くの人々に告知し、誘客に繋げるため、2009年度（平成21年度）に開始した美術館ホームページは、2016年度に、普及が進んでいる携帯型端末で適切に表

示されるように改良した。引き続き、新型コロナウイルス対策として2020年9月から導入したオンライン日時指定予約制の告知をはじめとする、タイムリーな情報提供のため、ホームページを情報発信センターとしつつSNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど）も利用して、内外の美術愛好者や旅行者、など幅広い客層の獲得に向けた活動をさらに展開する。

（3）プレスリリース

美術館情報や展覧会の告知を目的とした、各種媒体向けのプレスリリースを制作・発信し、各種媒体への告知あるいは記事の掲載を促進する。

（4）ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット

館内に展覧会ポスターを掲示し、展覧会や催事、会員組織を告知するチラシ（日・英）や年間スケジュールパンフレットを備える。館外においては、近隣の商店、交通機関や公共施設、文化教育施設、美術館等に展覧会のポスターやチラシを配送するとともに、さらに効果の見込める組織への情報提供を開拓する。

（5）内覧会・レセプション

展覧会の開催日前日に、プレス向け内覧会を実施し、宣伝、誘客に努める。特別展開催日前日の招待客を対象とした特別内覧会・レセプションは、実施方法を検討した上で開催を判断する。

（6）施設案内パンフレット

館内に、施設案内のパンフレット（日本語・英語・仏語・中国語・韓国語の5種）を引き続き常備する。

（7）他美術館との協力

引き続き美術館関連団体への加入や、他美術館との情報交換、共同企画の推進により、美術館業界の普及・活性化を図る。

（8）地域との連携

東京都ならびに港区の文化・芸術・教育機関との情報交換あるいは共同企画を推進することで、地域経済の活性化、ならびに文化的貢献のための活動に協力する。

（9）有料広告

コロナ禍の影響もあり、新聞広告への依存が業界として弱まっているなか、SNSを主流とするインターネットへのシフトがすでに始まっている。2022年度は、新聞広告を出しながら、一部の展覧会はSNS広告も利用することとする。企画展も含め、引き続き全展覧会のポスターを地下鉄・表参道駅構内に掲出する。

（10）根津倶楽部

「根津倶楽部」は、固定客層の獲得を目的として、2009年に開始した会員組織である。2012年の第1回の制度改定に続き、2019年に美術館新創開館10周年を迎えるにあたり、第2回の制度改定を行った。2019年度最初の展覧会初日にあたる4月13日より新制度での入会受付を開始、順調に会員数を増加させている。

(1 1) NEZUNET

「NEZUNET」は、インターネット環境を持ち、美術品鑑賞に興味を持つ人々を対象とし、展覧会の情報を普及することを目的として、当館が管理・運営する無料のメーリングリストである。会員数を着実に増やしている本制度をひき続き運営する。

(1 2) 青山茶会

「青山茶会」は、茶道にある程度習熟した人々を対象に、茶道美術への理解と普及を目的として、昨年度より1年間5万5千円の会費で、4回の茶会と4回の講座への参加、会員証提示により会員本人と同伴者1名が入館料無料、ミュージアムショップでの10%割引（一部商品を除く）の特典を提供する会員制度である。新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、2020年度は会員を募集したものの活動中止とした。2021年度、2022年度も会員を募集するのは時期早尚と判断したが、2023年度は会員数、年会費、茶会・講座の開催回数の見直し、改訂したうえで会員を募集し、活動を再開することとした。

(1 3) 美術品の館外貸出

信頼できる機関からの申請であり、有意義な展示及び催事とみなされ、運搬や展示環境に問題がなく、かつ、展示のローテーションに支障がない場合、収蔵美術品の館外貸出を行う。

(1 4) 画像の貸出

美術品鑑賞における教育普及、あるいは学術上有意義と認められる場合、収蔵美術品の画像の貸出を行う。

(1 5) 施設の貸与

文化・芸術分野の教育普及を目的とする、講演・茶会などの催事の申請であり、当館で開催することの意義が認められた場合は、講堂・茶室等の施設の使用を許可し、催事への協力を行う。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて停止していた施設貸与は、2022年度、感染拡大防止を考慮した新たな利用規則、定員などの見直しを行った上で再開したが、今後も状況に応じて規則を更新しながら、文化的な活動に施設を供していきたい。

II 収益事業

【事業の概要】

1. 不動産事業

1993年（平成5年）に当館の土地の一部に、地上5階地下1階、延べ床面積2,141平米の「青山サンライトビル」を日本殖産興業株式会社と持分割合二分の一で建築した。建物の当館持分については貸店舗とすることを目的として、日本殖産興業株式会社に年間約6,260万円で賃貸しており、管理は日本殖産に業務委託している。また、建物の日本殖産持分については、底地の地代として年間約2,110万円の収入を得ており、他に、駐車場の賃料として年間約66万円、NTTドコモの移動通信設備設置料として年間約139万円、合計年間約8,575万円の収入があり、当館の運営における安定した収入源となっている。